

## 町石

この道にある道標の石柱は、町石（ちょういし）と呼ばれています。町（ちょう）は、昔使われていた長さの単位で、一町は 109 メートルに相当します。石（いし）は石です。意に違わず、この石柱はおよそ 109 メートルおきに置かれています。

町石は高さ 3 メートルほどで、五輪塔（五重の塔）の形に彫られています。五輪塔のそれぞれの部分は異なる意味を持ち、世界を構成する五大要素と仏教の真言宗という宗派の五色を表しています。この五大要素は、上から下に、空、風、火、水、地です。それぞれの部分には仏陀または菩薩の名がサンスクリット語で彫られており、彫刻者の名、建立の年も刻まれています。

これらの神聖な石柱は、高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）が開山の際に道に設置したとされる卒塔婆を置き換えたものです。慈尊院と根本大塔の間にある 180 の町石のほとんどは、彫石の技術が高かった鎌倉時代（1185-1333 年）につくられました。根本大塔と奥之院の間の道には、さらに 36 の石柱があります。昔から参詣者は奥之院を目指して高野山を登ってきました。